

Ⅲ シラバス

2020年度以前入学生

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
英語Ⅳ(総合)	演習	4	後		1	松尾 文子	37
国際社会論	講義	4	後		1	翁 康健	39
文学と人間	講義	4	後		1	畠山 瑞樹	41
保健医療福祉行政論Ⅱ	講義	4	前		2	武澤 千尋、安藤 陽子、小川 克子、川口 桂嗣、近藤 明代	43
食品機能学	講義	4	前		2	松川 典子	45
管理栄養士総合演習	演習	4	通	1		坂本 恵、荒川 義人、板垣 康治、○岡本 智子、○千葉 仁志、濱岡 直裕、○百々瀬 いづみ、○山部 秀子、金高 有里、○榎本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、○氏家 志乃、津久井 隆行、○渡辺 いつみ	47
臨床栄養学Ⅳ	講義	4	前	2		○岡本 智子	49
臨床栄養学実習Ⅲ	実習	4	前	1		○岡本 智子	51
地域栄養活動演習	演習	4	前		1	○榎本 浩司	53
国際栄養学	講義	4	後		1	○山部 秀子、岡部 哲子	55
総合演習Ⅱ	演習	4	前	1		○百々瀬 いづみ、板垣 康治、○岡本 智子、坂本 恵、○千葉 仁志、濱岡 直裕、○山部 秀子、金高 有里、○榎本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、○氏家 志乃、津久井 隆行、○渡辺 いつみ	56
卒業研究	演習	4	通		2	坂本 恵、安念 保昌、板垣 康治、○岡本 智子、加藤 隆、○千葉 仁志、濱岡 直裕、○百々瀬 いづみ、○山部 秀子、金高 有里、○榎本 浩司、松川 典子、○氏家 志乃、津久井 隆行、○渡辺 いつみ	57
給食経営管理論実習Ⅲ	実習	4	通		1※	○山部 秀子、○百々瀬 いづみ、○渡辺 いつみ	59
公衆栄養学実習Ⅱ	実習	4	通		1※	○榎本 浩司	60
臨床栄養学実習Ⅳ	実習	4	通	2		○岡本 智子、○氏家 志乃	61
臨床栄養学実習Ⅴ	実習	4	通		2	○岡本 智子、○氏家 志乃	62

※ 選択必修：どちらかの科目を必ず履修すること。他の選択科目で代替えは出来ません。

栄養教諭一種免許取得に必要な教職科目

2020年度以前入学生

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
栄養教育実習事前・事後指導	実習	4	通		1	加藤 隆、○百々瀬 いづみ、岩部 万衣子	63
栄養教育実習	実習	4	通		1	加藤 隆、○百々瀬 いづみ、岩部 万衣子	65
教職実践演習	演習	4	後		2	加藤 隆、○百々瀬 いづみ、岩部 万衣子	66

- (注) 1. 科目の責任者は科目担当者の先頭記載者
 2. ○印は学科所属の専任教員で医師、管理栄養士、栄養士、臨床検査技師を経験している実務経験者

授業科目	英語Ⅳ（総合） English IV		担当教員	松尾 文子
対象学科・ 年次・学期	看護学科/栄養学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1単位	
授業目的	1. 英語の4技能を含む総合的な語学能力の向上を目指す。 2. 英語のプレゼンテーションを通じて、英語の運用能力の向上を目指す。			
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握できる。 2. 専門領域の文献を読むことができる。 3. 自分の考えをまとめて英語で口頭発表できるようにする。			
関連科目	英語 I, II, III			
テキスト	<i>Alive and Active</i> . Asama M., Lambert N. and Iwao Y. (NAN'UN-DO, 2022)			
参考書				
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点	
	試験	70	学んだことの理解度を測る定期試験 70%。Unit ごとの Warm-up Exercise の小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 定期試験を未受験の場合は、評価対象としない。	
	レポート			
	小テスト	20		
	提出物			
その他	10			
履修上の 留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。テキストの Inspiration Exercise に関する情報を Teams にアップするので、積極的に利用する。			
課題に対するフィードバックの方法	小テストの答え合わせを授業中に行い、さらに音声と音声のスク립ト、解答、およびテキストの Inspiration Exercise の解答例を Teams にアップする。			
実務経験を 活かした教育内容				
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習	
1	栄養とフィットネス	Introduction / Unit 1: Nutrition and Fitness	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
2	フィットネスクラブの 実態	Unit 2: 24/7 Fitness Clubs	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
3	運動と脳年齢	Unit 3: Exercise and Brain Function	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
4	運動療法	Unit 4: Exercise Therapy	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
5	高齢化を支える新たな テクノロジー	Unit 5: To Age or Not to Age	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
6	電動自転車人気	Unit 6: Riding into the Future	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
7	健康スポーツと技術応 用	Unit 7: 3D Printing for Healthcare and Sport	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
8	これまでのテキストの 理解度確認	中間試験	試験勉強・次回の授業の予習(4時 間)	
9	スポーツの進化系	Unit 8: Adaptive Sports	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
10	不測の事態に備える応 急手当	Unit 9: First Response	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
11	ワクチン接種をめぐる 賛否両論	Unit 10: Vaccination—Crucial or Dangerous	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
12	メディカルツーリズム の是非	Unit 11: Medical Tourism	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	
13	スポーツにおける薬物 使用の鋼材	Unit 12: Athletic Performance Enhancement	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
14	進化するスポーツシューズ	Unit 13: Athletic Footwear Design	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)
15	アドベンチャーの新たな流儀	Unit 14: Adventure is for Fashion	テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)

授業科目	国際社会学 International Sociology	担当教員	翁 康健
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・4年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	世界の地理や文化を理解するとともに、急変していく世界の情勢や社会、経済の中での国際的視野の拡大を図ることを目的とする。具体的には主権国家の意味について考え、異文化間、民族間、文明間の社会問題を理解し、国家間のマネジメント・コミュニケーションと交渉力の重要性について考える。また、グローバル化の進展のなかで、人々の生活に与える影響や保健医療の問題などについて国際的な視点で考え、国際活動と共存のあり方について学習する。		
到達目標	国際的な時事問題を理解できる社会人を目指す。		
関連科目	「現代社会学」の知識が基盤である。		
テキスト	特に指定しない。時事問題に関しては、視聴覚教材を利用する予定。		
参考書	1.石井香世子編「国際社会学入門」(ナカニシヤ出版) 2.西原和久・樽本英樹編「現代人の国際社会学・入門—トランスナショナルリズムという視点」(有斐閣コンパクト) 3.宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編「国際社会学」(有斐閣)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 定期試験 (50%) と講義内で実施するミニ・レポート (50%) から目標の到達状況を評価する。
	試験		
	レポート	50	
	小テスト		
	提出物	50	
その他			
履修上の留意事項	・ 講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じることがある。 ・ 講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。		
課題に対するフィードバックの方法	各回講義末尾に質疑応答の時間を設ける。加えて、講義後にもミニレポートを通じて意見・感想・疑問点の提出を求める。講義で取り上げることが適切と判断されるものについては、各回講義の冒頭(あるいは末尾)で紹介し、口頭で解説・回答するとともに、必要に応じて適宜資料を作成・配布することとする。		
実務経験を活かした教育内容			
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	オリエンテーション・グローバル化	・ グローバリゼーション ・ トランスナショナルリズム	・ 事前学習: シラバスを確認し、授業の全体的内容を把握すること (2 時間) ・ 事後学習: 関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみる (2 時間)
2	国境を越える人—移民と無国籍者の問題	・ 「移民」とはだれか ・ 国籍と市民権 ・ グローバル化と無国籍者, 身分証明	・ 事前学習: 第 2 回講義資料「国境を越える人—移民と無国籍者の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと (2 時間) ・ 事後学習: 移民と無国籍者の問題について、自分なりに説明をしてみる (2 時間)
3	グローバル化時代の難民・国内避難民	・ 「難民」とはだれか ・ グローバル化時代の難民 ・ 難民の越境化をめぐる議論 ・ 日本における難民問題	・ 事前学習: 第 3 回講義資料「グローバル化時代の難民・国内避難民」を確認し、学習範囲を把握しておくこと (2 時間) ・ 事後学習: 難民・国内避難民のことについて、講義から理解したことをまとめる (2 時間)
4	グローバル化がすすむ日常生活	・ 越境する家族 ・ トランスナショナル教育 ・ 医療におけるグローバル化の進展	・ 事前学習: 第 4 回講義資料「グローバル化がすすむ日常生活」を確認し、学習範囲を把握しておくこと (2 時間) ・ 事後学習: 越境する家族生活、教育、医療の問題をまとめる (2 時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	グローバル時代の観光・ 民族・宗教の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化と国際観光 ・国境・観光・出稼ぎ労働者 ・グローバル化時代の宗教とアイデンティティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 5 回講義資料「グローバル時代の観光・民族・宗教の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと (2 時間) ・事後学習：グローバル社会における観光・民族・宗教の関係を整理すること (2 時間)
6	社会問題からみるローカルとグローバルの関係	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪のグローバル化 ・ローカル資源とグローバル市場の間 ・紛争のグローバル化 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 6 回講義資料「社会問題からみるローカルとグローバルの関係」を確認し、学習範囲を把握しておくこと (2 時間) ・事後学習：ローカルとグローバルの関係を説明してみること (2 時間)
7	国際格差と貧困問題	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困のグローバル化 ・ボーダーレス化する市場 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 7 回講義資料「国際格差と貧困問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと (2 時間) ・事後学習：貧困のグローバル化とグローバル市場の格差について、まとめること (2 時間)
8	全体のまとめ・補足	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のまとめ ・期末レポートの案内 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 8 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること (2 時間) ・事後学習：8 回分の講義資料を確認し、期末レポートのテーマを考えること (2 時間)

授業科目	文学と人間 Literature and Humanity	担当教員	島山 瑞樹
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・4年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	<p>文学は、長い間残り続け愛され続けている、人間社会の財産です。多様な文学作品をひもとき、自らの考えを深めることは、他を受容し自己の感性を高め、豊かな人間性を育むことに繋がります。</p> <p>この講義では、日本の伝統的な文学や文化を通して、人間・社会・時代を構成する要素についてテーマ毎に考察します。日本人に馴染み深い昔話や魅力的な古典文学作品を対象とし、多くの作品の読解を通じて、体系的に基礎的な知識や教養を身に付けるとともに、自ら考え表現する力の基礎を培うことを目的とします。</p>		
到達目標	<p>1.日本の文学や文化についての、基礎的な知識・教養を身に付けることができる。</p> <p>2.文学・文化と人間との関わりについて、自ら考え表現することができる。</p>		
関連科目	高等学校の国語便覧等を利用し、古典文学の基礎を復習しておくことで、講義内容をより深く理解できる。		
テキスト	なし（プリント配布）		
参考書	講義時適宜紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	<p>評価基準・観点</p> <p>レポート 60%+小レポート 40%。小レポートは、①講義内容の整理と確認②自らの考察の表現化のため、随時実施する。レポートは、すべての講義終了後かつ定期試験期間前に、提出期限を定める（最終講義日から1週間後を予定）。</p> <p>評価の観点は到達目標に示した2点。講義内容を理解し、日本の文学や文化に関する知識をどれだけ身に付けることができているか、またそれらを基に、自らの考察を深めそれを表現できているかを評価する。</p>
	試験		
	レポート	60	
	小テスト		
	提出物	40	
その他			
履修上の留意事項	<p>1.古典文学作品を多く読むことになるため留意すること。資料は事前に配布する。</p> <p>2.進度により、講義で扱う作品および扱う回を変更する場合がある。</p>		
課題に対するフィードバックの方法	<p>1.講義時に実施する小レポートは添削後返却を行い、各自が到達・改善のポイントを具体的に把握できるようにする。</p> <p>2.前回実施した小レポートの内容について、次回講義時に総括を行い、到達目標への各自の達成度を確認できるようにする。</p>		
実務経験を活かした教育内容			
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス 古典文学と現代	ガイダンス 現代における古典文学について考える（『落窪物語』） 中古の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
2	古典文学と昔話	視覚・聴覚について考える（「かぐや姫」） 上代・中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
3	古典文学のはじまり	身体観について考える（『古事記』） 上代の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
4	古典文学の虚実	病について考える（『大鏡』『平家物語』） 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
5	古典文学の変遷①	享受について考える（「浦島太郎」）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
6	古典文学の変遷② 古典文学と文化①	享受について考える（「浦島太郎」）② 日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	古典文学と文化② 古典文学と伝説①	日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）② 日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）① 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
8	古典文学と伝説②	日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）② 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）

授業科目	保健医療福祉行政論 II Health & Welfare Administration II	担当教員	武澤 千尋、安藤 陽子、小川 克子、 川口 桂嗣、近藤 明代
対象学科・ 年次・学期	看護学科/栄養学科・4年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉行政の仕組みと行政施策における財政について学ぶ。 ・主要な地域保健活動の実際と地域保健活動の進め方について学ぶ。 ・保健医療福祉計画の考え方と策定の基本について学ぶ。 ・保健医療福祉行政における保健師の役割、栄養士の役割を学ぶ。 ・地域保健医療福祉計画策定について学ぶとともに、地域の健康問題解決に必要な社会資源の開発や保健・医療・福祉サービスの仕組みについて学ぶ。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健活動の基盤である行政・関係法規・財政の仕組みと機能について理解する。 ・主要な地域保健活動の実際を知ることによって、地域保健活動の具体的な進め方を理解する。 ・保健医療福祉行政と地域保健医療福祉計画の策定における保健師や栄養士の役割について理解する。 		
関連科目	「保健医療福祉行政論Ⅰ」		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・藤内修二「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院) ・厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2022/2023」(厚生労働統計協会) ・医療情報科学研究所「公衆衛生がみえる 2022-2023」(メディックメディア) 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「衛生行政大要」(日本公衆衛生協会) ・野村陽子編集「最新 保健学講座7 保健医療福祉行政論」(メヂカルフレンド社) ※その他、必要に応じプリント配付		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 保健医療福祉行政の仕組み、財政、主要な地域保健活動とそれらの計画策定の基本に関する内容の定期試験(筆記試験)を実施し、目標の達成度を評価する。
	試験	100	
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	保健医療福祉行政の仕組みや関係法規等の概要については、3年次に履修済み、本科目ではさらに深く学習するので、事前学習として、「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習を行い、授業に臨むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	最終授業においてポイントを押さえながら全体をフィードバックする。		
実務経験を 活かした教育内容	行政における保健師として活動をしてきた実務経験者の立場から、実際の活動例を紹介しながら、理解しやすい様に講義を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (武澤)	保健医療福祉行政の概要	1.厚生行政と保健医療福祉行政 2.保健医療福祉行政の仕組み 3.地方自治と地方分権 4.個人情報と個人情報保護	事前:1と2については「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習に努め、さらに3と4については該当箇所を読み疑問を明らかにする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。
2 (武澤)	保健医療福祉行政の財政	1.国と地方公共団体の財政の仕組み ・財政の意義と機能 ・国家財政 ・地方財政 2.予算の機能と原則 ・財政民主主義 ・国の予算の手続き ・地方公共団体の予算の手続き	事前:事前に該当箇所を読み、疑問点を明らかにする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。
3 (武澤)	健康の概念と公衆衛生の概念	1.健康の概念 ・健康の概念の変遷 ・現在の健康観 2.WHO(世界保健機関)の健康に対する考え方 ・WHOの健康に対する考え方 ・WHO憲章と日本国憲法 3.公衆衛生の概念	事前:事前に該当箇所を読み、疑問点を明らかにする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(1時間)。
4 (武澤)	世界と日本の公衆衛生活動の歴史	1.世界の公衆衛生活動の歴史 2.日本の公衆衛生活動の歴史	事後:公衆衛生活動の歴史的発展における欧米諸国と日本の相違点を整理し、理解する(2時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (川口)	地域における主要な保健活動①	1.地方分権と地域保健法 ・地域保健法の制定 ・地域保健法の体系 ・地域保健対策の推進に関する基本的な指針 2.国民健康づくり対策 ・第一・第二・第三(健康日本 21)・第四次(健康日本 21(第2次))対策	事前:「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学んだ内容を復習する(1時間)。 事後:教科書と資料をもとにして学修内容を復習する(2時間)。
6 (近藤)	地域における主要な保健活動②	3.母子保健対策	事後:母子保健対策の変遷と保健所・市町村における事業内容を関係法規と共に整理する(2時間)。
7 (川口)	地域における主要な保健活動③	4.成人・高齢者保健対策	事後:成人・高齢者保健対策の変遷とともに、保健対策の関係法規についても整理する(2時間)。
8 (安藤)	地域における主要な保健活動④	5.障害者(児)保健対策	事後:精神保健対策、難病対策の変遷と、実際の活動を関係法規と関連づけて復習する(2時間)。
9 (安藤)	地域における主要な保健活動⑤	6.感染症対策	事前:「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学修した「感染症対策のポイント」を復習する(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。
10 (安藤)	地域における主要な保健活動⑥	7.結核対策	事前:結核対策の歴史的変遷と結核の現状と対策の実際について整理しておく。予防接種についても「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習をする(1時間)。 事後:教科書と資料をもとに学修内容を復習する(2時間)。
11 (小川)	地域における保健活動①	市町村における主要な保健活動	事後:地域における保健活動の授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする(2時間)。
12 (小川)	地域における保健活動②	保健所における主要な保健活動	事後:母子保健対策の変遷と保健所・市町村における事業内容を関係法規と共に整理する(2時間)。
13 (小川)	地域保健医療福祉計画①	1.地方自治体の保健医療福祉計画 ・地方自治体と計画行政 ・地方自治体の保健医療福祉に関する分野別計画	事後:地方自治体の行政計画と保健医療福祉計画との関係や課題の理解に努める(2時間)。
14 (小川)	地域保健医療福祉計画②	・地方自治体の計画策定	事後:地域保健医療福祉計画の策定、推進・管理・評価の進め方について復習して理解するとともに、厚生労働省健康局長通知「地域における保健師の保健活動について」(平成25年4月25日健発0419第1号)を読み、計画策定と実施等における保健師の役割について整理する(2時間)。
15 (近藤)	地域保健活動の展開	・地域保健活動の進め方	事後:地域保健活動の基本と保健師・栄養士の役割について各自のノートに整理する(2時間)。

授業科目	食品機能学 Food Functional Science		担当教員	松川 典子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位	
授業目的	近年、食品は3つの機能性から評価され、とくに生理機能については、健康維持・増進、疾病の予防・症状の改善を目的とした食品成分の活用、あるいは食品開発などの側面から注目されている。本講義では、生理機能に関する食品成分について、その効果、作用機序を教授し、管理栄養士に求められる食品の生理機能に関する知識の修得、その種の情報を適切に判断するための能力を最新エビデンスに基づき身につける。			
到達目標	1. 機能性食品に対する行政上の位置づけ、法的規制、表示等を説明できる。 2. 生理機能を発揮する食品成分の種類、作用のメカニズムを説明できる。 3. 新たな開発が進む様々な機能性食品を科学的に説明できる。			
関連科目	食品科学Ⅰ、基礎栄養学			
テキスト	青柳康夫「食品機能学」(建帛社)			
参考書				
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点	
	試験	80		
	レポート			
	小テスト	20		
	提出物			
その他			授業内で前回の内容に関する小テスト(20%)を実施し、全体の授業内容に関連する定期試験(80%)を実施することで学習到達度を評価する。	
履修上の留意事項	関連科目(食品科学Ⅰ、基礎栄養学)の内容を復習した上で授業に臨むこと。各授業の前後に1~2時間の復習を要する。			
課題に対するフィードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説する。			
実務経験を活かした教育内容				
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習	
1	食品機能学	食品機能学の講義概論、ガイダンス	事前:シラバスを確認する。教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)	
2	栄養表示基準、機能性食品	食品表示法、保健機能食品の制度、対象食品について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)	
3	抗酸化性機能成分	活性酸素、抗酸化メカニズム、抗酸化を有する食品について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)	
4	難消化性・微生物活性機能1	食物繊維の働き、消化吸収促進と代謝改善機能について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)	
5	難消化性・微生物活性機能2	難消化、吸収阻害および微生物活性機能食品の三次機能について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)	
6	脂質代謝関連機能1	中鎖脂肪酸・植物ステロールの機能について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	脂質代謝関連機能 2	n-3 系脂肪酸、n-6 系脂肪酸、コレステロールの機能について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
8	酵素阻害、酵素活性化機能	血圧上昇抑制成分の種類と作用機構について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
9	消化関連酵素阻害と糖尿病	血糖値上昇抑制成分の種類と作用機構について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
10	免疫系に及ぼす機能 1	免疫機能を活性化する成分について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
11	免疫系に及ぼす機能 2	食物アレルギーについて	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
12	神経系に及ぼす機能	神経系に影響を及ぼす食品成分について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
13	時間栄養学	時間栄養学とは、からだのリズムと栄養について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
14	抗加齢医学	抗加齢医学とは、抗加齢成分・食品について	事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
15	まとめ	講義のまとめ、試験	事前:これまでの授業内夜を復習する。(1時間) 事後:試験問題を復習する。(1時間)

授業科目	管理栄養士総合演習 Practical Seminar of Registered Dietetics	担当教員	坂本 恵、荒川 義人、板垣 康治、岡本 智子、千葉 仁志、濱岡 直裕、百々瀬 いづみ、山部 秀子、金高 有里、槌本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、氏家 志乃、津久井 隆行、渡辺 いつみ
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	専門教育科目の学修を通し、4年間で修得してきた管理栄養士に必要な基礎教育科目と専門教育科目の関連性を理解したうえで、食と健康に関する問題点や疑問点を明確にし、修得した各科目を横断的かつ総合的に判断し、問題解決する能力を身につける。また、4年間の成果の総仕上げと位置づけ、修得した知識と技術を統合し、管理栄養士として社会で活躍できる実践力を再確認し、補足する。		
到達目標	1. 専門基礎科目・専門科目における学修目標を習得している。 2. 各科目を横断して、問題解決できる総合的な能力を身につけている。 3. 卒業後の置かれた立場で、管理栄養士として、職務を実践できる基礎的な知識と技術を身につけている。 4. 管理栄養士国家試験合格のための総合力を修得する。		
関連科目	担当教員が担当している管理栄養士に必要な基礎教育科目と専門教育科目		
テキスト	資料を配布する		
参考書	クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア）		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点 到達状況を小テストおよび取り組み姿勢により総合的に評価する。 模擬試験、補講等を実施するので必ず出席すること。 その他：取り組み姿勢
	試験		
	レポート		
	小テスト	70	
	提出物		
その他	30		
履修上の留意事項	管理栄養士の国家試験の対策として重要な科目である。必ず出席し努力を継続して実力アップをはかること。模擬試験などの成績は変動するが、努力を継続することが国家試験合格の道となる。補講等は必ず受講する事が基本事項である。臨地実習や就活などで欠席する場合は必ずその旨を教員に事前に連絡すること。進捗状況等により補講内容等の順序が変更になることがある。各授業後に理解度を確認するために行われる小テストは必ず受けること。基準点に達しない場合は補講、課題、再テストなどを行う。		
課題に対するフィードバックの方法	小テスト終了後、解答を渡すので自己採点する。間違ったところは配布プリントなどで復習するよう促す。わからない箇所がある場合は個別に対応する。		
実務経験を活かした教育内容	各分野の担当者が実務経験を活かして、適切な助言をしながら授業を効果的に進めていく。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (坂本)	ガイダンス 専門基礎科目の知識の確認	管理栄養士総合演習について 管理栄養士に必要な基礎的な知識について 専門基礎科目の補講（食べ物と健康）	管理栄養士国家試験について予習する。授業内容を復習する。勉強計画を立てる（2時間）。
2 (松川)	専門科目の知識の確認	専門科目の知識の確認と補講（基礎栄養学）	基礎栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
3 (千葉)	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
4 (金高)	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
5 (津久井)	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
6 (荒川)	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（食べ物と健康）	食べ物と健康を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (濱岡)	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（食べ物と健康）	食べ物と健康を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
8 (板垣)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（社会環境と健康）	社会環境と健康を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
9 (岩部)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（応用栄養学）	応用栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
10 (岡本・氏家)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（臨床栄養学）	臨床栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
11 (百々瀬)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（栄養教育論）	栄養教育論を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
12 (山部・渡辺)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（給食経営管理論）	給食経営管理論を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
13 (槌本)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（公衆栄養学）	公衆栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
14 (岡本・氏家)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（臨床栄養学）	臨床栄養学（応用問題）を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
15 (坂本)	全科目の確認	全科目の総まとめ	国家試験過去問題を確認し覚える（2時間）。

授業科目	臨床栄養学Ⅳ Clinical Nutrition IV	担当教員	岡本 智子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	内分泌疾患、電解質異常、がん、手術、周術期患者の管理、クリティカルケア、摂食機能の障害、身体・知的障害、乳幼児・小児疾患、妊産婦・授乳婦の疾患、老年症候群等の疾患等について病態別栄養ケア・マネジメント（栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、実施、評価、フィードバック）の方法を修得する。栄養管理計画作成に必要な情報収集と理由、情報にもとづく栄養評価、栄養診断、栄養ケア計画の作成とその根拠、モニタリング、評価・計画の作成について学修する。さらに、チーム医療における管理栄養士の役割（実践症例の栄養評価及び栄養計画の作成・マネジメント）、他専門職との連携等について具体的に理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床栄養学Ⅱ、Ⅲにあげた到達目標を達成したうえで、さらに今回学修した疾患について知識を積み上げて修得している。 2. がんの化学療法と栄養管理の問題点、解決法等を考えることができる。 3. 高齢者の栄養管理における問題点と解決法等を考えることができる 4. 妊娠期・周産期の栄養管理と問題点、解決等を考えることができる。 5. クリティカルケアにおける栄養管理について説明できる。 6. 食物アレルギーを理解し、具体的な食事の管理について説明できる 		
関連科目	臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ		
テキスト	上原誉志夫外 第4版 最新臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 光生館		
参考書			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 課題レポート 50% その他：小テスト 30%、授業態度 20% で評価する
	試験		
	レポート	50	
	小テスト	30	
	提出物		
その他	20		
履修上の留意事項	各授業の前後にそれぞれに2時間の予習・復習を要する。興味を持って、積極的に授業に参加してほしい。		
課題に対するフィードバックの方法	レポートにはコメントを付して返却する。小テストにはその場で解答と説明を行う。		
実務経験を活かした教育内容	高度な栄養管理が必要な疾患を臨床の現場をイメージさせながら、症例をもとに講義を進め、また具体的な栄養ケアが実践できるように課題を出しながら、技術やスキルを身につけていくように授業を進めていく		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	疾患・病態別栄養管理 (1)	臨床栄養学Ⅲの振り返り、この授業の目的、授業の流れ、次回までの課題の実践方法、レポート提出について	シラバス、教科書を確認して授業の準備をする (2時間)。授業の内容をまとめ、復習する (2時間)
2	疾患・病態別栄養管理 (2)	内分泌疾患 (甲状腺・副甲状腺・副腎)	事前：テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)
3	疾患・病態別栄養管理 (3)	I型糖尿病、小児糖尿病	事前：テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)
4	疾患・病態別栄養管理 (4)	小児の疾患における栄養管理 先天性代謝異常	事前：テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)
5	疾患・病態別栄養管理 (5)	妊産婦の疾患：妊娠高血圧、妊娠糖尿病	事前：テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	疾患・病態別栄養管理 (6)	症候・症状の原因、鑑別法と栄養障害の評価（フィジカル アセスメント）	事前：テキスト・配布資料により 予習する（2時間）。事後：授業 内容を整理し、ノートにまとめ る（2時間）
7	疾患・病態別栄養管理 (7)	肝臓・膵臓疾患 代償期・非代償期の栄養管理	事前：テキスト・配布資料により 予習する（2時間）。事後：授業 内容を整理し、ノートにまとめ る（2時間）
8	疾患・病態別栄養管理 (8)	がんの栄養管理：化学療法、放射線療法、悪液質	事前：テキスト・配布資料により 予習する（2時間）。事後：授業 内容を整理し、ノートにまとめ る（2時間）
9	疾患・病態別栄養管理 (9)	がんの栄養管理とチーム医療（緩和ケアチーム）	事前：テキスト・配布資料により 予習する（2時間）。事後：授業 内容を整理し、ノートにまとめ る（2時間）
10	疾患・病態別栄養管理 (10)	精神疾患患者の栄養管理 認知症（GS 谷文乃氏）	事前：テキスト・配布資料により予 習する（2時間）。事後：授業内 容を整理し、ノートにまとめる（2時 間）
11	疾患・病態別栄養管理 (11)	高齢者の栄養管理とチーム医療	事前：テキスト・配布資料により予 習する（2時間）。事後：授業内 容を整理し、ノートにまとめる（2時 間）
12	疾患・病態別栄養管理 (12)	周術期における栄養管理 電解質異常、アシドーシス・ア ルカローシス	事前：テキスト・配布資料により予 習する（2時間）。事後：授業内 容を整理し、ノートにまとめる（2時 間）
13	疾患・病態別栄養管理 (13)	クリティカルケア：ICU・CCUにおける栄養管理とチーム 医療	事前：テキスト・配布資料により予 習する（2時間）。事後：授業内 容を整理し、ノートにまとめる（2時 間）
14	疾患・病態別栄養管理 (14)	摂食機能障害、身体・知的障害 口蓋裂・顎裂	事前：テキスト・配布資料により予 習する（2時間）。事後：授業内 容を整理し、ノートにまとめる（2時 間）
15	疾患・病態別栄養管理 (15)	食物アレルギー まとめ	事前：テキスト・配布資料により予 習する（2時間）。事後：授業内 容を整理し、ノートにまとめる（2時 間）

授業科目	臨床栄養学実習Ⅲ Clinical Nutrition Practicum III	担当教員	岡本 智子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	1単位
授業目的	提示された合併症を伴う複雑な困難症例について、栄養ケア計画の作成に必要な情報を整理し、栄養アセスメントを行う。栄養アセスメントの総合評価として、徴候・症状等の基礎データを整理しプロブレムリストを作成する。それらをふまえて栄養ケア計画を作成するとともに、モニタリング、評価・計画の作成、チーム医療における栄養管理の展開と手順について実習を通して理解する。提示された症例についての栄養ケア計画から評価、チーム医療における展開について、プレゼンテーションを行う。発表後はグループディスカッションによって、臨床現場における実践力、応用力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養ケアプロセスが理解できる基本的な疾患症例について栄養アセスメント、栄養ケア計画の作成することができる。 2. 基本的な疾患症例や合併症を伴う疾患、また病態の変化にあわせた栄養障害疾患症例を対象にについて栄養アセスメント・栄養診断、栄養ケア計画作成し、モニタリング・評価が実施できる。 3. 対象者の QOL を考慮し、栄養ケア計画作成と栄養・食事療法を实践すべき献立の評価を行なうことができる。 4. 提示症例の栄養評価、ケア計画をチーム医療の場で根拠に基づいて説明することができる。 5. 提示症例について、口頭及びポスターなどで症例報告のプレゼンテーションができる。 		
関連科目	臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ		
テキスト	なし		
参考書	上原善志夫外 第4版 最新臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 光生館 臨床栄養学 栄養ケアプロセス演習－傷病者個々人の栄養ケアプラン作成の考え方－		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標の到達状況を下記の方法で評価する。 課題レポート・提出物 50% その他：グループ活動と発表 50%で評価する。
	試験		
	レポート	25	
	小テスト		
	提出物	25	
その他	50		
履修上の留意事項	示された症例については自ら考え、さらにグループ内で検討し栄養ケアプランを立案し実践してほしい		
課題に対するフィードバックの方法	症例をまとめ発表するところでコメントを付す		
実務経験を活かした教育内容	修得した栄養管理の知識や技術が、実際の臨床の現場で具体的にどのように活用され、活かされているのか、その結果として栄養サポートを受けた患者の状態がどのように変化していくのか、疾患ごとに症例を踏まえ、臨床現場をイメージさせながら授業を進める		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス 授業の目的	職業倫理 守秘義務 栄養ケア・マネジメントについて	シラバス、テキストを確認して授業の準備をする (2時間)。授業の内容をまとめ、復習する (2時間)
2	栄養ケアプロセス (栄養アセスメント、栄養診断、評価、モニタリング)	病棟に行く準備 栄養評価 患者への説明など 栄養ケアプロセスに則っての流れを知る	事前：配布資料により予習する (2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)
3	糖尿病と栄養管理 (1)	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養管理①栄養アセスメントと栄養診断について	事前：テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)
4	糖尿病と栄養管理 (2)	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養管理②栄養管理計画書作成	事前：テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	糖尿病と栄養管理 (3)	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養管理③他グループとのディスカッション 患者への説明	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
6	消化器術後の栄養管理 (1)	胃がん切除後における栄養管理 ①栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
7	消化器術後の栄養管理 (2)	胃がん切除における栄養管理 ②プレゼンテーション 患者への栄養指導と栄養指導報告書作成 (SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
8	消化器術後の栄養管理 (3)	胃がん切除における栄養管理 ②入院から外来へのフォローアップについて	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
9	肝疾患の栄養管理 (1)	NASH の栄養管理 ①栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
10	肝疾患の栄養管理 (2)	NASH の栄養管理 ②プレゼンテーション 患者への栄養指導と栄養指導報告書作成 (SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
11	肝疾患の栄養管理 (3)	肝硬変の栄養管理③栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。患者への栄養指導と報告書作成(SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
12	肝疾患の栄養管理 (4)	肝硬変の栄養管理(蛋白不耐症) ④栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。患者への栄養指導と報告書作成(SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
13	栄養投与方法	経静脈・経腸栄養剤のプランニング方法	前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
14	栄養投与方法	栄養投与方法の確認:濃厚流動・輸液の実際(シミュレーター、ポンプ、輸液セット)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
15	栄養投与方法	栄養投与方法の確認:濃厚流動・輸液の実際(シミュレーター、ポンプ、輸液セット)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)

授業科目	地域栄養活動演習 Community Nutritional Program Practicum	担当教員	槌本 浩司
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	地域栄養活動の基本は、地域に住む全ての人の健康・生活の質向上という目的をもって、地域の活動体を組織し、健康の保持・増進に他職種と連携して取り組むことである。地域栄養活動における各種サービスやプログラムの調整、社会資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理の仕組みについて、実際の事例をもとに学修する。また、札幌市等の公表データをもとに、アセスメント、課題抽出、目標設定、媒体作成、模擬活動等を通して実践力を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康増進プログラムの対象・目的を理解している。 2. 集団の食事評価についての方法を説明できる。 3. 地域、職場等における食生活改善プログラムを作成できる。 4. 統計的なデータをもとに、集団を評価することができる。 5. プレゼンテーション力を身につけている。 		
関連科目	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、栄養教育論、応用栄養学		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加島浩子、森脇弘子編「ウエルネス公衆栄養学」(医歯薬出版) 2. 他にテーマごとにプリントを配布する。 		
参考書	※その他、開講時に掲示する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標の到達状況をレポート、提出物、その他で評価する。 その他：課題、活動に取り組む姿勢 20% 活動報告発表(内容含む) 20%
	試験		
	レポート	30%	
	小テスト		
	提出物	30%	
その他	40%		
履修上の留意事項	実践的な学修であり学外の方々に接する機会等がある、社会人としての基本的姿勢、礼儀をもって対応することは勿論、十分に事前学修、知識の整理しておくことが必要である。活動報告等に要する授業時間の割り振りは履修者数により変動することがある。		
課題に対するフィードバックの方法	演習時個々に課題の進捗状況に合わせコメントを実施するとともに、課題発表時の講義では、各グループ、全体に対するフィードバックを行う。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域における健康栄養マネジメント全般の内容を演習に織り交ぜながら、地域栄養活動の実践について理解しやすいように授業を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンスと自治体における栄養活動 1_1)	活動の実践と展開の方法について	事前：授業内容についてシラバスを読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。
2	自治体における栄養活動 1_2)	健康づくり関係法規について要約し解説できる。 行政栄養士の業務の違い(通知文書、実務の解釈) 都道府県・政令市等・市町村の役割分担の違い ・地域保健法に基づく役割分担が説明できる。	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。
3	政令指定市における健康・栄養活動 1_1)	札幌市(各区・北海道・全国)の統計情報を要約できる。 (主要死因・医療費・生活習慣病) 健康札幌 21 と健康日本 21 (国) の比較 北海道、札幌市の健康増進計画について	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。
4	政令指定市における健康・栄養活動 1_2)	札幌市(各区・北海道・全国)の統計情報を要約できる。 主要死因、SMRの推移と現状について 札幌市の健康増進計画とその現状値について	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。
5	健康づくり事業実施案作成準備 1-1)	健康づくり講話資料作成 1-1 食(乳幼児)に関する悩み解消資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅰ-2)	健康づくり講話資料作成Ⅰ-2 食（乳幼児）に関する悩み解消資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
7	健康づくり事業実施案 発表Ⅰ-3)	健康づくり講話資料の作成Ⅰ-3 食（乳幼児）に関する悩み解消資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
8	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅱ-1)	健康づくり講話資料作成Ⅱ-1 離乳食に関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
9	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅱ-2)	健康づくり講話資料作成Ⅱ-2 離乳食に関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
10	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅱ-3)	健康づくり講話資料作成Ⅱ-3 離乳食に関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
11	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅲ-1)	健康づくり講話資料作成Ⅲ-1 健康づくりに関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
12	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅲ-2)	健康づくり講話資料作成Ⅲ-2 健康づくりに関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
13	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅲ-3)	健康づくり講話資料作成Ⅲ-3 健康づくりに関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
14	健康づくり事業実施案 の発表Ⅰ-1	健康づくり講話の発表Ⅰ-1 講話資料の整理と印刷と発表	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
15	健康づくり事業実施案 の発表Ⅰ-2	健康づくり講話の発表Ⅰ-2 講話資料の整理と印刷と発表	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。

授業科目	国際栄養学 International Nutrition and Dietetics		担当教員	山部 秀子、岡部 哲子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位	
授業目的	国際的な視点から健康、栄養、食生活、食糧問題について捉えることを目的とする。各国の食事バランスガイド等について学修し、その国における栄養活動の状況を把握し、課題について学修する。また、我が国が行っている海外での栄養対策への支援や現在の地球環境と健康・栄養問題等の関連や解決すべき課題、諸問題への国際的な取り組み等についても学修する。			
到達目標	1. 栄養課題に対する国際社会の動きを理解する。 2. 我が国の諸外国に向けた栄養支援について理解する。			
関連科目	公衆栄養学、公衆衛生学			
テキスト	授業ごとに資料を配布			
参考書				
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点	
	試験		その他；授業での積極的発言や取り組み姿勢を評価する。	
	レポート	80		
	小テスト			
	提出物			
その他	20			
履修上の留意事項	ディスカッションなど自分の考えを表現する機会では積極的な参加をしてください。			
課題に対するフィードバックの方法	課題に関する解説を毎回実施する 事前事後学習として1時間程度の学修をおこなう。			
実務経験を活かした教育内容				
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習	
1 (山部)	国際社会の食について	地域や宗教による食の違いの理解	公衆栄養学で学んだことを整理しておくこと。	
2 (山部)	各国における食物ベースの食生活指針	現在の各国の食事ガイドや食料自給率についての理解	授業内容について復習し、疑問点をまとめる	
3 (山部)	青年海外協力隊について①	青年海外協力隊での経験 (特別講師：大山)	青年海外協力隊についてインターネット等で調べ、質問を用意する。	
4 (山部)	青年海外協力隊について②	青年海外協力隊の在り方	青年海外協力隊についてインターネット等で調べ、質問を用意する。	
5 (岡部)	各国の栄養改善対策の実際①	JICAにおける協力隊の活動紹介①	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。	
6 (岡部)	各国の栄養改善対策の実際②	JICAにおける協力隊の活動紹介②	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。	
7 (山部)	国際栄養分野における管理栄養士の役割	国際栄養分野における管理栄養士等の人材の役割について考える	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。	
8 (山部)	食・栄養に関する国際機関の役割	食・栄養に関する国際機関を理解する	視野を広く持ち、世界に目を向けられるようにしましょう	

授業科目	総合演習Ⅱ Practical Seminar of Nutrition II	担当教員	百々瀬 いづみ、板垣 康治、岡本 智子、坂本 恵、千葉 仁志、濱岡 直裕、山部 秀子、金高 有里、槌本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、氏家 志乃、津久井 隆行、渡辺 いつみ
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	各専門分野を横断して、専門分野のこれまでの学びで修得した基礎知識や技術に加え、臨地実習を通して実践的に修得した知識・技術、管理栄養士としての役割の理解をふまえて、グループワークで課題に取り組み、知識・技術を統合し、応用・活用して課題解決を図るとともに、この過程を通してコミュニケーション能力、お互いの知識・技術の交換や役割分担等、基礎的能力に加えてさらに各自が管理栄養士としての能力を高めることを目的とする。複数の教員の指導により各専門分野の知識を統合して演習形式で学修を進める。		
到達目標	管理栄養士として活動できる基礎的な能力に加えて、活用・応用できる能力が身についている。		
関連科目	1～3年次に履修した各分野の既修科目が全て関連する。		
テキスト	特になし(資料を配付する)		
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		<p>目標の達成状況を下記の視点から評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物：分野ごとに課題に沿った資料作成を課す。 (レポート・プレゼンテーション資料等) ・その他：授業時の発表、取り組み姿勢を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	50	
その他	50		
履修上の留意事項	<p>1.各分野の苦手、理解不足などを解消するために、事前に自習して、積極的にとりくむこと。</p> <p>2. 目標を共有し、メンバーが役割を分担しチームワークで成果を出すように考えること。</p>		
課題に対するフィードバックの方法	提出物に関して授業内で解説したり、コメントを付したりして返却する。		
実務経験を活かした教育内容	各分野の担当者が実務経験を活かして、適切な助言をしながら授業を効果的に進めていく。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (百々瀬) (坂本) (松川)	ガイダンス、 フードサイエンスⅠ	総合演習Ⅱの概要 食品機能と調理	事後学習に1時間ほど要する
2 (津久井) (金高)	フードサイエンスⅡ	食品機能開発 健康増進・疾病予防と食品の機能	事後学習に各1時間ほど要する
3 (板垣)	フードサイエンスⅢ	食品機能とアレルギー	事後学習に1時間ほど要する
4・5 (槌本) (濱岡)	栄養疫学	データの収集、管理、応用について EBMにもとづいた評価、治療について、具体的なデータの扱い方	事前・事後学習に各1時間ほど要する
6～9 (岡本) (氏家)	臨床栄養学	臨床現場における疾患別・病態別の栄養管理	事前・事後学習に各1時間ほど要する
10～12 (百々瀬) (坂本) (槌本) (渡辺)	地域社会における 栄養活動	地域社会における根拠にもとづいた評価、栄養活動	事前・事後学習に各1時間ほど要する
13～15 (百々瀬) (千葉) (氏家) (岩部)	栄養教育	ライフステージ(大学生)と栄養教育 根拠に基づいた栄養教育の実施	事前・事後学習に各1時間ほど要する

授業科目	卒業研究 Graduation Study	担当教員	坂本 恵、安念 保昌、板垣 康治、岡本 智子、加藤 隆、千葉 仁志、濱岡 直裕、百々瀬 いづみ、山部 秀子、金高 有里、槌本 浩司、松川 典子、氏家 志乃、津久井 隆行、渡辺 いつみ
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	2単位
授業目的	管理栄養士としての専門分野において修得した知識等を総合的に活用し、研究課題を設定、研究計画作成、資料の収集、実験や資料の分析、報告書の作成、ディスカッションなどを繰り返しながら、最終的な成果を発表するとともに論文を作成する。社会で求められる専門職業人としての研究能力を修得する。		
到達目標	1. 研究テーマについて専門的に追求し、研究成果を口頭で発表するとともに論文にまとめる。 2. 卒業研究を通して、発想力、分析力、問題解決能力を身につける。 3. 実験・調査・ゼミ活動、発表を通してコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につける。 4. 事象について、多くの人に理解されるような客観的な見解をまとめ、記述ができる力を身につける。		
関連科目	担当教員の専門分野（担当科目）と関連する		
テキスト	資料を配布する。各自のテーマが決定してから、ゼミ等を通して参考書等を検索する。		
参考書			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 提出物：研究テーマに関するレポートと調査計画書 10% その他：研究に対する取組姿勢 40%、口頭発表 10%、研究論文内容 40%
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物	10	
	その他	90	
履修上の留意事項	卒業研究は各自がテーマを決定し、予備研究、本研究等を通して科学研究の方法を学びながら、研究論文完成へつなげてゆく。ゼミ発表、実験、調査、研究発表、論文作成について各自が積極的にとりくむ必要性から、研究内容によって個別対応になることがある。各自、授業外学習時間は必須である。進捗状況により内容が前後することがある。		
課題に対するフィードバックの方法	担当教員が研究テーマに関連する内容について指導し添削を行う。		
実務経験を活かした教育内容	各担当者が実務経験を活かし、適切な助言をしながら効果的に進めていく。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (坂本)	オリエンテーション	卒業研究の今後の予定と、研究テーマの検討について	事前学習として研究テーマについて調べておくこと
2 (全担当教員)	研究方法について	研究方法の検討、文献検索について	事前・事後学習として 1～2 時間を要する
3 (全担当教員)	研究計画について	文献資料収集、研究計画作成について	事前・事後学習として 1～2 時間を要する
4 (全担当教員)	研究計画検討①	研究テーマに沿った研究計画を作成し検討する	事前・事後学習として 1～2 時間を要する
5 (全担当教員)	研究計画検討②	研究テーマに沿った研究計画を作成し検討する	事前・事後学習として 1～2 時間を要する
6 (全担当教員)	研究計画書確定	研究テーマに沿った研究計画書を確定する	事前・事後学習として 1～2 時間を要する
7 (全担当教員)	研究活動①	研究計画に基づき、テーマに沿った予備調査・実験等の準備を含む研究活動等	事前・事後学習として 1～2 時間を要する
8 (全担当教員)	研究活動②	テーマに沿った予備調査・実験等の準備を含む研究活動等	事前・事後学習として 1～2 時間を要する
9 (全担当教員)	研究活動③	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として 1～2 時間を要する
10 (全担当教員)	研究活動④	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として 1～2 時間を要する

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11 (全担当 教員)	研究活動⑤	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
12 (全担当 教員)	研究活動⑥	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
13 (全担当 教員)	研究活動⑦	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
14 (全担当 教員)	研究活動⑧	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理・分析等）、中間報告会の準備	事前・事後学習として1～2時間を要する
15 (全担当 教員)	研究活動⑨	卒業研究中間報告会	事前・事後学習として1～2時間を要する
16 (全担当 教員)	研究活動⑩	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
17 (全担当 教員)	研究活動⑪	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
18 (全担当 教員)	研究活動⑫	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
19 (全担当 教員)	研究活動⑬	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
20 (全担当 教員)	研究活動⑭	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
21 (全担当 教員)	研究活動⑮	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
22 (全担当 教員)	研究活動⑯	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
23 (全担当 教員)	研究活動⑰	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
24 (全担当 教員)	研究報告会準備①	発表スライドの作成	事前・事後学習として1～2時間を要する
25 (全担当 教員)	研究報告会準備②	発表スライドの確認とゼミ発表	事前・事後学習として1～2時間を要する
26 (全担当 教員)	研究報告会	研究成果報告会	事前・事後学習として1～2時間を要する
27 (全担当 教員)	卒業研究論文作成①	成果発表会等の結果をふまえて論文を作成する	成果報告会における指摘事項の再確認と論文作成に3時間程度要する
28 (全担当 教員)	卒業研究論文作成②	卒業研究論文の作成	作成した内容の確認、今後の予定確認と作成に3時間程度要する
29 (全担当 教員)	卒業研究論文作成③	卒業研究論文の作成	引き続き内容確認、作成に3時間程度要する
30 (全担当 教員)	卒業研究論文作成④	卒業研究論文の完成	作成した内容について読み込み、確認し提出するため3時間程度要する

授業科目	給食経営管理論実習Ⅲ Field Practice in Nutrition and Food Service Management III	担当教員	山部 秀子、百々瀬 いづみ、渡辺 いつみ
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年	選択・必修	選択必修
授業形態	実習	単位数	1単位
ねらい	児童生徒の栄養管理を中心に給食の運営や関連の資材（設備、食材、人材、情報、資金等）を総合的に判断して、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力を実践の場において養い、マーケティングの原理、給食の組織や運営管理等が実践の場でどのように活用されているのか等を実践的に学修し、学内で学んだ知識と技術の統合を図る。また児童生徒個々の特徴を考慮した上で、栄養管理のために喫食状況の把握、栄養・食事管理、食材管理、作業管理の分析、衛生管理、衛生教育、経営分析等を通して課題を発見し、問題解決のための検討などについて実践の場で学修する。さらに他部署・部門、多職種との連携を図るための方法や管理栄養士の役割を学修する。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養ケア・マネジメントの基礎的知識、技術について説明できる。 2. 栄養管理において重要な課題をあげ、その解決のため計画を立案できる。 3. 多職種連携における管理栄養士の役割を説明できる。 		
関連科目	給食経営管理論1、給食経営管理論Ⅱ、給食経営管理論実習Ⅰ、給食経営管理論実習Ⅱの他、これまでに学修してきた専門基礎科目および専門科目が関連する。		
実習内容	札幌市内の小学校等における実習		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物：20点（実習の目的、自主課題、施設課題） その他：80点（配分は以下の通り） 施設指導者の評価 30点 実習ノートの内容 30点 実習報告書の内容（実習の目的、課題の達成度について（発表を含む）20点
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20	
その他	80		
履修上の留意事項	臨地実習で身につけた知識や技術をさらに定着させ、より深く管理栄養士の業務を理解するために、積極的に取り組むこと。これまでに学修してきたことを復習、整理しておくこと。利用者の特徴や対応等についても十分に事前学習し、臨地実習に臨むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	実習目標の設定、課題への取り組みに対して、学生が主体的に進められるよう、随時助言をしながら、各臨地実習に向けての準備を進める。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨地実習において学修する内容や準備について具体的に指導する。また臨地実習では実務を行っている施設職員や管理栄養士の実践的な指導により、管理栄養士の職務や役割等について実習を通して実践的に学ぶことができる。		
実習方法	実習内容についてはオリエンテーションで説明する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 給食経営管理論実習Ⅲ臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設概要の把握 課題（自主課題または施設からの提示課題）の準備 2. 実習 実習施設（小学校等）における実習（45時間） 3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会での発表 		
実習施設	札幌市内の小学校等の給食提供施設		

授業科目	公衆栄養学実習 II Public Health Nutrition Practicum II	担当教員	槌本 浩司
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年	選択・必修	選択必修
授業形態	実習	単位数	1単位
ねらい	保健所や保健センター等において、地域保健活動における各所の役割や機能、地域住民を対象とした栄養管理に関わる管理栄養士の業務を実践的に学修する。国の健康増進施策等が地方公共団体でどのように計画、施策化、実践されているのかを学修する。また、住民への栄養・食生活の改善に関する事業を実践の場で体験し、様々な栄養関連サービスを必要とする人々に気づき、地域診断の結果から地域の優先的な健康・栄養課題を明確にし、課題解決にむけたプログラムの作成・実施・評価などについて学修し、実践活動の場で今まで修得した知識および技術の統合を図る。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生行政を理解している。 2. 住民の健康増進事業を通して栄養改善業務および栄養行政の概要を把握し説明できる。 3. 地域保健活動・健康づくり対策を理解している。 4. 地域保健活動・健康づくり対策が多職種連携により行われていることを理解している。 5. 地域栄養計画の立案、活動の進め方、評価、健康増進事業、地区組織の育成を体得している。 		
関連科目	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、地域栄養活動演習、栄養教育論、応用栄養学		
実習内容	保健所または保健センターにおける実習		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	100%	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 実習先の評価 40%、 実習記録 20%、 報告書（成果発表を含む）40%
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。 2. 実習の準備・事後の整理は協力して行うこと。 3. 実習保健所管内および保健センターの概要を把握しておくこと。 4. 自身の実習課題を明確化し、到達目標を立て、効果的な実習となるよう臨むこと。 5. 事前学習ノートの整理、報告書の作成は速やかに行い提出すること。 		
課題に対するフィードバックの方法	成果発表時の講義では、各グループ、全体に対するフィードバックを行う。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域における健康増進施策など、公衆栄養活動の実践に必要な知識について理解しやすいように授業を行います。		
実習方法	実習内容についてはオリエンテーションで説明します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 公衆栄養学臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設管内概要の把握 課題（自主課題または実習施設からの提示課題）の準備 2. 実習 実習施設（保健所、保健センター）における実習（45時間） 3. 事後指導 実習成果のまとめ（実習報告書） 実習報告会の準備 実習報告会での発表 		
実習施設	北海道保健所、札幌市保健所・保健センター		

授業科目	臨床栄養学実習Ⅳ Field Practice in Clinical Nutrition Ⅳ	担当教員	岡本 智子、氏家 志乃
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養状態の評価・判定を行い適切な栄養管理について、実践の場で学修する。施設組織内の栄養部門の概要や位置づけ、疾患やライフステージにより栄養管理が異なること、チーム医療・多職種の連携を経験し、地域医療や在宅医療等についても学修する。学内で修得した知識や技術を臨床の場で統合して、課題発見・気づき、どのような対応が必要なのかなどの課題解決を通して、臨床における管理栄養士としての様々な活動を学び、卒業後臨床の現場において実践・応用できる能力を身につける。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践活動の場において、専門職業人としての職業倫理、社会的使命について説明できる。 2. 実践活動の場において、課題発見・問題解決への取り組みを行うことができる。 3. 栄養管理業務において、適切なマネジメントを行うための専門的な知識や技術について説明できる。 4. チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。 5. 地域医療や在宅医療の概要について説明できる。 		
関連科目	臨床栄養学Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ.Ⅳ. 臨床栄養学実習Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ		
実習内容	病院施設における実習		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物：事前準備(課題を含む)20%、実習ノート・事後報告 30% その他：実習指導施設指導者の評価 40%、発表 10%
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物	50	
	その他	50	
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。 2. オリエンテーションは重要である、施設等の特徴を学修しておくこと。 3. 実習課題については実習施設指導者に相談、検討すること。 4. 実習記録の記入・整理・報告は速やかに行い、提出すること。 		
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での実習生指導時の経験を織り交ぜながら、充実した臨地実習ができるように必要とされる知識、技術、礼儀、コミュニケーション力について指導します。		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 臨床栄養学実習について 事前準備 臨床栄養学実習施設との事前打ち合わせの概要・その他 実習における留意事項 2. 実習 実習施設（医療施設）における実習 3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会の発表 (実習全体で90時間) 		
実習施設	札幌市内医療施設等		

授業科目	臨床栄養学実習 V Field Practice in Clinical Nutrition V	担当教員	岡本 智子、氏家 志乃
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年	選択・必修	選択
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養状態の評価・判定を行い適切な栄養管理について、実践の場で学修する。施設組織内の栄養部門の概要や位置づけ、疾患やライフステージにより栄養管理が異なること、チーム医療・多職種連携の連携を経験し、NSTで介入する合併症を伴う複雑な症例についても学修する。学内で修得した知識や技術を臨床の場で統合して、課題発見・気づき、どのような対応が必要なのかなどの課題解決を通して、臨床における管理栄養士としての様々な活動を学び、卒業後臨床の現場において実践・応用できる能力を身につける。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践活動の場において、専門職業人としての職業倫理、社会的使命について説明できる。 2. 実践活動の場において、課題発見・問題解決への取り組みを行うことができる。 3. 栄養管理業務において、適切なマネジメントを行うための専門的な知識や技術について説明できる。 4. チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。 5. 複雑な症例について栄養評価、栄養計画の作成ができる。 		
関連科目	臨床栄養学Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ.Ⅳ.臨床栄養学実習Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ		
実習内容	病院施設における実習		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物：事前準備(課題を含む)20%、実習ノート・事後報告 30% その他：実習指導施設指導者の評価 40%、発表 10%
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物	50	
	その他	50	
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。 2. オリエンテーションは重要である、施設等の特徴を学修しておくこと。 3. 実習課題については実習施設指導者に相談、検討すること。 4. 実習記録の記入・整理・報告は速やかに行い、提出すること。 		
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での実習生指導時の経験を織り交ぜながら、充実した臨地実習ができるように必要とされる知識、技術、礼儀、コミュニケーション力について指導します。		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 臨床栄養学実習について 事前準備 臨床栄養学実習施設との事前打ち合わせの概要・その他 実習における留意事項 2. 実習 実習施設（医療施設）における実習 3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会の発表 (実習全体で90時間) 		
実習施設	札幌市内医療施設等		